気仙沼－南三陸－鮎川－秋保

おかみさん新春トーク②

－遠藤さんのホテルがある石巻市鮎川も、東日本大震災では大きな被害を受けました。震災時の様子、ホテルの営業再開のエピソードを聞かせください。

遠藤　地震発生時、ホテルには東京からのツアー客が72人いたのですが、建物が高台にあったため、津波による被害はなく、お客さまは全員無事でした。

津波被害がなかった大きな理由として、金華山の存在が挙げられます。津波の緩衝材になったんですね。

ただ、地震による建物被害はひどかったです。

－ホテルの営業再開はいつごろだったのでしょうか。

遠藤　被害が大きかったため、震災直後は営業を再開するかどうか迷いましたが、あの巨大地震の中でも建物が残ったし、地域への経済効果、社員、家族も抱えていたので、営業を続けることにしました。施設が倒壊していれば、どうなったかは分からなかったです。

再スタートは震災の年の10月でした。当初は女川原子力発電所にメンテナンスで来ていた作業員が30人ほど宿泊していました。玄関周りや天井などを直し、安全対策を講じて再開しました。

－昨年11月からホテルの改装工事に入られたそうですが。

遠藤　震災後も一部改修しながら営業してきましたが、かなり老朽化していました。巨大地震にも耐えたホテルでもありますので、思い切って改装することにしました。

機械設備に多くの費用が必要となります。貸し切り風呂、特別客室なども新設します。

－はまなす海洋館も津波で全壊しました。多くの人が再開するのかどうか心配していたと思います。

鈴木　建物の1階部分は全てなくなり、柱だけになってしまいました。床はがれきで足の踏み場もなく、とても再開できる状況ではありませんでしたが、私の中で辞めるという選択肢はありませんでした。

震災後まもなく、地元の人が壊れた建物の前で泣いていました。「海洋館がこんな姿になってしまった…」と。それを見て、どんな形でも続けようと思いました。

震災の次の日から、社長と息子たち、被害のなかったスタッフで片付けをしました。「現場にいれば、営業再開のいい方法が浮かぶのではないか」と思ったからです。

ほとんどのスタッフは家が津波で流されましたが、命は全員無事でした。それが営業再開に向けた心の支えになりました。

－建物は全て撤去してからの再建だったのでしょうか。

鈴木　建物は宿泊、宴会・婚礼、チャペル・浴場の3棟に分かれており、宿泊棟は全て取り壊しましたが、残りの建物が使えそうだとゼネコンの方から聞かされ、ブライダルと宴会から再開することになりました。

震災前から続けていた七夕のブライダルフェアをどうするかということになりましたが、長年続けていたものが途絶えることが悲しかったので、復興フェアを企画しました。花火を上げたり、風船を飛ばしたり、子供向けのイベントもやりました。

地域の人たちにたくさん来ていただき、海洋館のことを思っていてくれたと感じ、とてもうれしかったです。「何としても再開するぞ」という気持ちになり、震災翌年の1月1日から営業を再開しました。

続く

◆出　席　者◆

鈴木　緑　さん（はまなす海洋館）
阿部　憲子さん（南三陸ホテル観洋）
遠藤　和子さん（ホテルニューさか井）
高橋　知子さん（篝火（かがりび）の湯緑水亭）

三陸新報社編集局次長　玉谷誠一